

観 光 課

【総括】

平成30年度は基幹産業の担い手不足など、人口減少にともなう課題について観光を通じた地域共生社会の実現に向けた取り組み等を行いました。

国内ではオリンピック・パラリンピック開催に向け、政府は2020年の訪日外国人旅行者数を4,000万人との目標を掲げるなか、平成31年1月には国際観光旅客税を創設したことで旅行満足度の向上、受入体制の強化が期待されるところです。

鳥羽市においても外国人観光客入込数は増加傾向にあり平成30年は過去最高の116,457人をかぞえ、誘客促進と利便性向上のための多言語表記やWi-Fi環境のさらなる充実が求められています。

漁業と観光の連携事業においては、取り組みを続けてきたさわらのブランド化について平成30年10月4日に「答志島トロさわら宣言」を行いました。フィッシュアナライザーを用い、徹底した品質管理を行っていることが各種メディアで多く取り上げられ、ブランドのタグ付きさわらの平均価格は昨年度比21.2%、タグ無しの価格についても4.8%の上昇となるなど、漁業所得の向上につながるブランド化に成功しました。

一方、鳥羽市の観光を支える宿泊事業所の人手不足解消に向け、～とばびと活躍プロジェクト～として、昨年度に引き続き高校生を対象とした宿泊業就労体験バスツアーを実施しました。

また、新たな取り組みとして福祉と観光の連携による市民就労促進事業を実施、主婦やシニア層をはじめとした、働きたいのに働く場所が無いといった現状を打開し、鳥羽の人々が生涯活躍できるまちづくりを目指し、フルタイム以外でも多様な働き方を実現するためのきっかけとして宿泊業の業務内容を分解し作成した「プチ勤務～おしごとカタログ」を用いた相談会を行いました。

このような取り組みを通じ、働き手と宿泊事業者が就労条件等を再確認することで、就職に繋がらない理由の発見により労働環境の見直し等の効果が期待されます。

平成30年度は鳥羽市観光施策の根幹となる第二次鳥羽市観光基本計画に基づく前期アクションプログラム（平成28年度～30年度）の最終年であり、観光関係者で構成されるアクションプログラム管理会議・市民検討会議において、これまで取り組んできた事業の評価・進捗管理・方向性の検討を行う中で、官民一体となり令和元年度～令和3年度で実施する中期アクションプログラムを策定しました。

【新たに実施した事業】

平成30年10月9日に英国の大型客船「ダイヤモンド・プリンセス」初寄港では2,500人以上の外国人観光客が一斉に下船されたこともあり、受け入れ態勢を含め多くの課題も見出されました。

この寄港を契機に外国船籍のクルーズ船対応の充実化は、今後のインバウンド戦略を進める上において、鳥羽市はもちろんのこと近隣市町（伊勢市、志摩市、南伊勢町）にとっても、観光振興の重要な位置付けとなりました。

このことから、クルーズ船寄港時におけるインバウンド受入環境の整備やアクセシビリティの向上観光消費の促進、新たなツアー造成・提案等の対応を多くの諸課題への対応と訪れるすべての乗船客の満足度向上を目指して、鳥羽市と近隣市町、国、県、観光商工関係団体及び交通関係団体等を構成員とする「鳥羽港クルーズ船誘致受入協議会」を平成31年1月23日に設立しました。

(款) 2 総務費

(項) 1 総務管理費

(目) 5 財産管理費

(単位：千円)

予算現額	決算額	財 源 内 訳					
		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
112,226	111,906						111,906

事業区分	3 基金積立金	111,906 千円	事項別明細書 P 56 ~
観光振興事業	予算現額	112,226 千円	
	決算額	111,906 千円	
	翌年度繰越額	0 千円	
まちづくりの目標	2-1【観光交流】自然の恵みと出会う感動をわかちあおう	(前年度決算額)	116,164 千円
観光施策に必要な財源を確保し、将来にわたる観光振興策の推進に資するため、観光の振興、環境衛生施設の整備、消防施設その他消防活動に必要な施設の整備費用の財源として、徴収した入湯税から、鳥羽市観光振興基金に積立てを行いました。 ・平成28年度積立金 122,605,250円 ・平成29年度積立金 116,163,500円 ・平成30年度積立金 111,906,400円			

(款) 2 総務費

(項) 1 総務管理費

(目) 6 企画費

(単位：千円)

予算現額	決算額	財 源 内 訳					
		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
193	92				92		0

事業区分	3 友好都市提携事業	92 千円	事項別明細書 P 58 ~
友好都市提携事業	予算現額	193 千円	
	決算額	92 千円	
	翌年度繰越額	0 千円	
まちづくりの目標	5-2【行政経営】効率的で心こもった行政経営を進めよう	(前年度決算額)	105 千円
本市と友好都市宣言をしている兵庫県三田市、災害時相互応援協定を締結している岐阜県美濃市と長野県飯島町の3市町で開催されるイベントへ出展・物販及び観光PRを行い、交流の促進に努めました。 ・平成30年11月 3日 第7回いいちゃん産業祭り (飯島町 2名) ・平成30年11月10日 第43回美濃市産業祭 (美濃市 2名) ・平成30年11月11日 第44回さんだ農業まつり (三田市 2名) ○主な経費 旅費 92千円 ○主な財源 ふるさと創生基金 92千円			

(款) 6 観光商工費

(項) 1 観光費

(目) 1 観光総務費

(単位：千円)

予算現額	決算額	財 源 内 訳					
		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
75,418	74,274				8,619		65,655

事業区分	1 観光給与等管理費	59,882 千円	事項別明細書 P 138 ~																		
観光一般管理経費	予算現額	60,046 千円																			
	決算額	59,882 千円																			
	翌年度繰越額	0 千円																			
まちづくりの目標	2-1【観光交流】自然の恵みと出あう感動をわかちあおう	(前年度決算額)	61,804 千円																		
<p>観光課職員人件費9名分（うち伊勢志摩観光コンベンション機構へ2名派遣）のほか、一般管理経費として、パンフレット発送、統計調査事務等の観光関連事務を円滑に進めました。</p> <p>また、嘱託職員1名を雇用し、市内外からの鳥羽観光への問い合わせやメディア対応とともに、SNS（Facebook、Twitter、YouTube、Instagram）やWebサイトを利用した、迅速な情報発信を行いました。</p>																					
<table border="1"><thead><tr><th></th><th>観光客数（人）</th><th>宿泊者数（人）</th></tr></thead><tbody><tr><td>平成26年</td><td>4,426,539</td><td>1,861,065</td></tr><tr><td>平成27年</td><td>4,617,471</td><td>1,884,352</td></tr><tr><td>平成28年</td><td>4,481,154</td><td>1,847,338</td></tr><tr><td>平成29年</td><td>4,284,915</td><td>1,726,642</td></tr><tr><td>平成30年</td><td>4,313,698</td><td>1,747,584</td></tr></tbody></table>					観光客数（人）	宿泊者数（人）	平成26年	4,426,539	1,861,065	平成27年	4,617,471	1,884,352	平成28年	4,481,154	1,847,338	平成29年	4,284,915	1,726,642	平成30年	4,313,698	1,747,584
	観光客数（人）	宿泊者数（人）																			
平成26年	4,426,539	1,861,065																			
平成27年	4,617,471	1,884,352																			
平成28年	4,481,154	1,847,338																			
平成29年	4,284,915	1,726,642																			
平成30年	4,313,698	1,747,584																			
<p>○主な経費</p> <p>時間外手当 1,315千円</p> <p>嘱託職員賃金 2,149千円</p> <p>○主な財源 観光振興基金 209千円</p>																					

事業区分	2 観光基本計画管理事業	5,978 千円	事項別明細書 P 140 ~
観光基本計画管理事業	予算現額	6,416 千円	
	決算額	5,978 千円	
	翌年度繰越額	0 千円	
まちづくりの目標	2-1【観光交流】自然の恵みと出あう感動をわかちあおう	(前年度決算額)	7,338 千円
<p>観光関係団体とともに、第二次鳥羽市観光基本計画前期アクションプログラム事業の評価と進捗管理を行いながら施策の方向性を確認し、令和元年度からの3年間で実施する中期アクションプログラムを策定しました。</p> <p>策定された戦略に基づき、関係団体との連携をさらに強化しながら効率的かつ効果的な事業展開を図っていきます。</p>			

観光基本計画管理事業

各種検討会議の開催

- ・市民検討会議（2回）：課題の整理、提案等を実施
- ・アクションプログラム管理会議（4回）：戦略の統廃合、数値目標の検討、進捗管理評価等を実施

○主な経費

委託料 中期アクションプログラム策定支援業務 4,860千円

○主な財源

観光振興基金 5,935千円

事業区分

3 コンベンション誘致事業

8,414 千円 事項別明細書 P 140 ~

観光コンベンション機構

予算現額	8,956 千円
決算額	8,414 千円
翌年度繰越額	0 千円

まちづくりの目標	2-1【観光交流】自然の恵みと出会う感動をわかちあおう	(前年度決算額)	6,419 千円
----------	-----------------------------	----------	----------

伊勢志摩観光コンベンション機構は、伊勢志摩周辺の市町と三重県及び管内観光協会、商工会議所、旅館組合、公共交通機関、民間団体などで構成され、インバウンド対策・組織力強化を目的として新たに専門職員を配置し、平成31年3月には観光庁の定める日本版DMO候補法人として登録されました。

同機構は伊勢志摩広域での集大会誘致と観光振興や官民一体となった広域連携によるスケールメリットを活かした情報発信、誘客促進及び観光基盤整備等の様々な事業に取り組んでいます。これらの事業実施のため、負担金の支出と職員2名を派遣しています。

1. 情報発信事業

伊勢志摩地域の効果的な誘客のため、行政区域の枠を超えた広域でのスケールメリットを活用した情報発信に取り組みました。機構ホームページへのアクセス数は576万PVで、SNSでのフォロワー数も順調に増加しており、アクセス地域は約90%が県外からとなっていることから効果的な取り組みとなっています。

2. 観光客及びコンベンションの誘致促進及び受入体制整備に関する事業

- ① ツーリズムEXPO、北海道旅行博、関空旅博等の大規模イベント出展による誘致活動
- ② 首都圏でのインバウンド商談会、タイ国際旅行フェアでの商談会、環境省等と連携したファミトリップの実施等による外国人観光客誘致活動
- ③ MICE誘致（22件）及び助成金交付による開催支援（11件）の実施、MICE商談会への出展

3. 伊勢志摩フィルムコミッション事業

映画・テレビ・CM等の撮影を誘致・サポートすることにより、地域の魅力のPRと多種多様な広報宣伝を行います。

- ① 撮影等問合せ対応及び取材・撮影サポート56件
- ② 取材・撮影に繋がった件数24件

テレビ番組 「ザ！世界仰天ニュース」「得する人損する人」「農泊につぼん旅」等
映画 「青夏～君に恋した30日～」「半世界」等

4. 観光情報の調査研究、観光客満足度向上に関する事業

5. 観光産業及び観光文化の振興と人材育成事業

観光コンベンション機構

6. 観光振興プラン改訂事業

マーケティング調査の結果を踏まえ、令和元年度からの5カ年計画として、観光立圏”伊勢志摩経済圏の活性化”を目指した「伊勢志摩観光振興プラン」を策定しました。

7. 伊勢志摩WAON寄付金の受領

イオンリテール株式会社との包括協定により、流通ビジネスによる観光振興事業の一環として、WAONカード利用金額の0.1%にあたる3,757,745円が機構に寄付され、広域観光振興事業に活用されています。

○主な経費

負担金 伊勢志摩観光コンベンション機構負担金 8,414千円

○主な財源

観光振興基金 2,475千円

(款) 6 観光商工費

(項) 1 観光費

(目) 2 観光振興費

(単位：千円)

予算現額	決算額	財 源 内 訳					
		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
197,690	192,315	10,917	376		84,897	216	95,910

事業区分

1 観光振興事業

113,032 千円 事項別明細書 P 140 ~

観光振興推進事業	予算現額	112,961 千円
	決算額	112,563 千円
	翌年度繰越額	0 千円
まちづくりの目標	2-1【観光交流】自然の恵みと出あう感動をわかちあおう	(前年度決算額) 130,196 千円

観光振興を図るため、観光案内所の運営による観光情報の発信や案内のほか、各観光関係団体との連携による観光振興に取り組んでいます。

・鳥羽市観光案内所運營業務

近鉄鳥羽駅構内にある鳥羽市観光案内所において、鳥羽市及び伊勢志摩地域の観光案内や外国人観光客への対応を行うことで、利便性向上に努めています。

鳥羽市を訪れる外国人観光客は年々増加傾向にあり、外国語が堪能な職員を常時配置・案内看板等の多言語表記を実施することでJNTO（日本政府観光局）のカテゴリーⅡに認定されました。

今後も観光客の更なる満足度向上を図っていきます。

観光案内所 総利用者数	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
	85,105人	71,548人	72,207人	71,414人	60,992人
うち外国人 利用件数	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
	782件	1,130件	1,341件	1,425件	1,324件

○主な経費

観光案内所運營業務 12,165千円

家賃及び共益費 1,028千円

観光振興推進事業

・観光パンフレット作成業務

鳥羽市の観光PR、情報発信や情報案内を目的として、パンフレット等の増刷を行いました。市内外でのイベント等で配布するほか、来庁・電話等による問い合わせでの活用や観光を予定している方へ郵送するなど、観光情報の発信材料として活用しています。

- ①広域イラストマップ改訂増刷 30,000部
 - ②鳥羽たびガイド改訂増刷 40,000部
 - ③離島ウォーキングマップ（4種） 45,000部
 - ④カラー名刺シートタイプ 10,000枚 台紙 1,000枚
- 主な経費 印刷製本費 3,948千円

【負担金】

○伊勢志摩国立公園協会 1,447千円

伊勢志摩国立公園協会への負担金を支出し、伊勢志摩国立公園の維持管理・情報発信、ビジターセンターの運営管理を行いました。

・伊勢志摩エコツアー推進の広報事業

「伊勢志摩海岸線物語 自然・暮らし・共存」をタイトルとし、伊勢志摩国立公園の自然とそこに生活する人々の営みを感じられる写真を使ったカレンダーを制作し会員へ配布をしたほか、海の博物館や鳥羽ビジターセンター等で販売を行いました。

また、ホームページ等を活用し、伊勢志摩国立公園に関する観光情報や自然保全活動等の情報発信を行いました。

・鳥羽ビジターセンターの運営

来館者に対して伊勢志摩国立公園の解説と観光案内を実施したほか、クラフト教室の開催（9回開催、参加者89名）や、海女人形や海女の木彫り像等の展示を行いました。

・伊勢志摩国立公園ふれあい事業

伊勢志摩の魅力を感じていただくため、3市1町各1回ずつエコツアーを開催しました。鳥羽市では、「潮騒の舞台・神島 海女さんふれあい体験ツアー」を実施しました。

そのほか、ボランティア団体の協力による清掃活動やイベントでの出展等を行いました。

◎鳥羽ビジターセンターの運営管理（利用者数）

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
利用者数	7,071人	7,527人	6,927人	6,805人	6,238人

○三重県観光連盟 552千円

国内外から三重県へ来訪する観光客が三重県のファン・リピーターになっていただけるよう常に新鮮で魅力的な情報を発信し、観光誘客による観光消費額の増加及び地域の活性化に取り組みました。

・観光情報提供事業

①公式サイト「観光三重」の運営管理

- ・ページビュー数 18,044千件（前年対比112.0%）
- ・SNSによる情報発信 Facebook（ファン数）25,055人（全国4位）、Instagram 16,140人（全国1位）、Line@（全国2位）、Youtube（全国3位）等
（都道府県観光振興団体の公式SNS・メールマガジン運営状況に関する調査結果）

観光振興推進事業

- ②季刊観光情報誌「観光三重」、英語版「三重の観光ガイドブック」の作成
- ③関西及び中部における広域連携イベント等への出展（6回）等
- ・誘致拡大のための広報宣伝
 - ①旅行エージェントや関係機関等へのキャラバンセールスへの参加
 - ②ラジオ番組等でのPR実施（NHK名古屋、岐阜放送、FM鈴鹿）
- ・観光産業及び観光文化の振興
 - 県内外で開催される物産展での観光キャンペーンの実施（11回）
- ・観光基盤整備
 - ①会員研修会の開催
 - ②会員向けメールマガジンの配信（毎月配信）
 - ③観光ボランティアガイド事業 ※全体研修会を鳥羽市で実施（平成30年11月22日）
 - ④三重県全県DMO推進業務
- ・外客誘致促進事業
 - ①FIT（個人旅行者）向け情報発信の実施（Facebook7言語、インスタグラム3言語等）

○伊勢志摩学生団体誘致委員会 600千円

伊勢志摩地域における教育研修旅行の継続を図り、小・中・高校の教育研修旅行の更なる誘致を行うため、首都圏・関西圏、その他地域の小・中学校及び高等学校等を主要ターゲットとして学校訪問及びセールスを行いました。

また、学校関係者だけではなく、旅行エージェントや修学旅行関係団体等へのアプローチを行い、伊勢志摩への招へい活動も展開しました。

- ・学校訪問やエージェントへのセールス活動
 - ①首都圏（千葉県千葉市・市川市・船橋市）中学校訪問（平成30年7月23日～25日）95校
 - ②関西圏（大阪府寝屋川市）小学校訪問（平成31年2月25日～27日）24校
 - ③東北圏、首都圏、関西圏の教育旅行エージェントへのセールス実施
- ・伊勢志摩現地招へい事業
 - ①全国修学旅行研究協会 伊勢志摩現地研修（平成30年8月2日、3日）
 - ②東武トップツアーズ(株) 伊勢志摩現地研修（平成30年9月6日、7日）
 - ③(株)近畿日本ツーリスト首都圏・関東 伊勢志摩現地研修（平成30年10月12日、13日）
- ・企画立案事業
 - ①学生団体旅行ガイドブック「伊勢志摩においさないさあ」改訂増刷
 - ②おもてなしや体験等の伊勢志摩ならではの魅力をセールスポイントとして活動
- ・受入体制整備調査事業
 - ①誘致実績実態調査
 - ②訪日教育旅行の受入体制調査

○VISIT伊勢志摩事業 1,500千円

伊勢志摩地域の温泉のイメージ定着を目的に、3年間の継続事業として取り組みを始めました。ミレニアル世代をターゲットに閑散期の1～3月において、旅行商品造成、情報発信を実施。ターゲティングメルマガ・じゃらん誌面掲載を行い、地域全体で706名の宿泊に繋がりました。

観光振興推進事業

○みえの観光の産業化推進委員会 634千円

東京ビックサイトで開催された日本最大級の旅イベント「ツーリズムEXPOジャパン2018」へ三重県、伊勢志摩観光コンベンション機構、伊勢市、志摩市、近鉄とともに出展し、伊勢志摩の情報発信及び誘客促進を図りました。

・平成30年9月20日～23日開催 来場者数207千人（過去最高）

○テレビ番組制作（三重テレビ「ええじゃないか。」） 1,543千円

当番組は三重テレビのほか8地方局での再放送もあり全国世帯数の50.1%をカバーしており、鳥羽市、伊勢市、志摩市の各市町の負担金と民間企業の共催により、伊勢志摩の観光資源や旬な情報発信を行い誘客促進を図りました。

また、今年度から1回の放送を2市で分割する放送回を導入し放送回数の増加を行いました。

7月9日放送 「話題の”新登場”をええとこ探し」（鳥羽市・志摩市）

8月6日放送 「夏を満喫するええ旅さがし！」（鳥羽市）

10月1日放送 「秋のおすすめイベントでええ旅探し！」（鳥羽市）

11月12日・19日放送 「特別回 親孝行ツアーをええ旅さがし」（鳥羽市・伊勢市・志摩市）

1月14日放送 「おもてなしを感じる ええ旅さがし！」（鳥羽市・伊勢市）

○広域連携誘客事業（北海道エリア） 1,000千円

北海道の名付け親である松阪市出身の松浦武四郎生誕200周年及び北海道命名150周年を軸として、松阪市を含む伊勢志摩地域で連携し、北海道エリアから伊勢志摩への誘客を図るため、北海道旅行博への出展を行いました。

・北海道旅行博（平成30年11月3日～4日、札幌グランドホテル、来場者数のべ14,212人）

その他負担金

○日本観光振興協会 163千円 ○伊勢鳥羽志摩観光連絡協議会 150千円

○伊勢熊野観光連絡協議会 100千円 ○中部小型船安全協会 50千円

○伊勢志摩国立公園自然ふれあい推進協議会 100千円 ○温泉所在都市協議会 13千円

○東海地区外国人観光客誘致促進協議会 200千円

○新たな知と方法を生む土日集中セミナー参加 25千円

【補助金】

○鳥羽みなとまつり大会 8,700千円

第63回鳥羽みなとまつり大会を安全に実施するため、花火の打ち上げ及び警備・安全対策について、補助金を支出しました。鳥羽マリンターミナルでは、金刀比羅宮鳥羽分社の神事を皮切りに、ダンス・踊り・和太鼓演奏等の市民団体の方々のステージイベントを開催し、4,738発の花火が打ち上げられ、11万人の来場者で賑わいました。

来場者の安全を確保するため、警察、海上保安部、消防団、観光関係団体、市民団体等が協力し、事故防止や交通対策に努めました。

観光振興推進事業

○鳥羽市観光協会 10,500千円

鳥羽市観光協会が実施する観光振興事業に対して補助金を支出し、観光誘客のためのプロモーションに加え、地域連携、おもてなし歓迎、インバウンド対策事業等に取り組みました。

・真珠婚プロモーション事業

結婚30周年を真珠婚と呼ぶことから、市内ホテルで「真珠婚式」を実施し、養殖真珠発祥の地として鳥羽観光の魅力を打ち出し誘客を図りました。（参加ご夫婦27組、参列者58名）

・文化、交流・おもてなし事業

①第22回鳥羽ビルフィッシュトーナメント国際大会2018（台風12号接近のため、開催中止）

②グラウンドゴルフ大会（参加者113名）

・地域連携支援事業

①地域振興支援事業

（小浜町・相差町・浦村町・石鏡町・国崎町・畔蛸町でのイベント等への支援）

②ミナサマークル答志島2018（平成30年7月20日～8月31日 来場者1,530名）

③鳥羽39（サンキュー）まつり（平成30年10月8日～平成31年3月9日）

鳥羽旅館組合加盟旅館で利用できる宿泊補助券を500枚発行。

・広報宣伝誘致事業

①各種マスコミへの広告掲載、新聞や雑誌等への広告掲載、テレビ・ラジオへの出演、各種パンフレットの改訂増刷（鳥羽市観光マップ80,000部増刷等）

②中部地区、関西地区、関東地区へのセールス及びキャンペーン活動

③市内外のイベント時における鳥羽物語宣伝事業（イベント参加4回、63名参加）

・受入事業、その他事業

①大型客船受入れ・リメンバー赤いハンカチ事業（大型客船受入れ8回、605名参加）

②観光ボランティア支援事業（観光ガイド紹介件数26件）

・観光振興特別事業

①漁業と観光の連携促進事業（豊かな漁村づくり推進委員会）

トロさわら宣言後の販路拡大と宿泊プラン造成に取り組んだほか、アワビの中間育成（稚貝の大型化）等について調査研究を行いました。

②海外誘致事業

ブリュッセル国際コンクールSAKE-selection-やツーリズムEXPOジャパンに参加し、鳥羽への誘客に結びつくような情報発信に取り組みました。

③鳥羽文化芸術支援事業

18回目となる鳥羽クラフト展を開催しました。今回は旅するマーケット海音（umine）との同時開催となり、クラフトブースだけでなく、飲食ブースなど様々なジャンルのブース出店があり、多くの来場者で賑わいました。（平成30年10月7日 来場者数7,000名）

④おもてなし歓迎事業

日本一リピーターの多い観光地を目指すため「マイホーム鳥羽活動」と題し、同協会会員による①声掛け運動、②毎月第2火曜日は清掃の日、③各施設での赤いハンカチお見送りを実施しました。

⑤雇用対策事業

鳥羽市が実施する就労体験バスツアーと連携し、各施設への見学受入サポートや参加者（鳥羽高校生等の学生）へ観光業の魅力を伝え、意見交換等を行う機会を創出しました。

観光振興推進事業

⑥鳥羽フラ誘客事業

令和元年7月に開催される鳥羽フラ2019に向けて特設公式サイトを構築し、イベントPR及び入場券の前売り販売を実施しました。

また、フラダンス専門雑誌「フラレア」において、鳥羽の観光情報を盛り込んだ広告を掲載しました。

○鉱泉源保護管理整備費 47,960千円

鉱泉源を活かした観光振興および鉱泉源の保護管理・施設整備を図るため、鉱泉浴場の適正な保護・管理のための費用や、温泉を利用した誘客宣伝事業等に係る費用について、入湯税収入額の3割を補助金として支出しました。

①鉱泉源の保護管理・施設整備

温泉施設水質検査、湯量調査の実施 2回（平成30年7月、12月実施）

佐田浜東公園足湯「とまり湯」維持管理

佐田浜東公園足湯「とまり湯」水質検査 毎月2回実施

②温泉を利用した誘客宣伝事業等

新聞、テレビ、雑誌への広告掲載

「節目の旅・Restart鳥羽」キャンペーン実施

関西圏の旅行会社へのセールス及びキャラバンを実施

（名古屋市内 17社 ・ 大阪市内 24社 ・ 兵庫県内 12社）

③ゆーわく倶楽部（鳥羽市温泉振興会若手会員）活動

「温泉ゆーわくチケット」を考案し加盟施設へ配布。各種メディアで取り上げられたことで温泉の魅力を広く周知したほか、アドバイザーを招き温泉水を使用した化粧水の開発研究を行いました。

④先進地視察

視察先：花巻温泉・志戸平温泉

視察内容：農業と観光の連携

○佐田浜駐車場観光対策支援事業費 11,665千円

各離島の旅館へ宿泊する観光客及び団体旅行客を受け入れるため、鳥羽市開発公社へ補助金を支出し、離島観光の交通アクセスにおけるハンディの補完及び大型観光バス受入体制強化による誘客促進を図りました。

離島観光における交通ハンディの支援としては充実しているものの、離島への観光客数は減少しており、離島観光の強化が必要です。

佐田浜駐車場駐車実績一覧

	離島宿泊者分	大型バス分
平成26年度	9,277台	1,036台
平成27年度	8,813台	946台
平成28年度	8,157台	924台
平成29年度	6,770台	893台
平成30年度	6,894台	929台

4離島への観光入込数

	4離島観光入込数
平成26年度	199,936人
平成27年度	195,244人
平成28年度	184,750人
平成29年度	180,377人
平成30年度	177,737人

観光振興推進事業

○観光地域ブランド確立支援事業 2,600千円

地域独自の価値を活かした国内外から選好される魅力ある観光地域づくりを促進するため、海女文化、御食国文化を活かした魅力づくりを行う鳥羽商工会議所への支援を行いました。

①ヨガツアーの実施

開催日：平成30年11月17日～18日 2日間開催（宿泊型）

開催場所：答志島ブルーフィールド・レイフィールド

来場者：15人

②御食国×京都 和食の祭典出展

開催日：平成31年3月2日～3日 2日間出展

開催場所：京都市内 西本願寺北境内地および伝道院

事業内容：答志島ロケーションサービスによる「ミニまるはち井」販売による食の魅力発信

③「第6回アーティスト・イン・レジデンス2018」として、芸術大学との連携による離島文化をテーマとした芸術作品の制作及び展示

開催日：平成30年7月31日～8月2日 3日間開催

開催場所：菅島しろんご浜

④「宿の和食講座」 顧客満足度向上を目的に三重三料会を講師に迎え実施

開催日：平成30年7月18日、11月6日 2日間開催

開催場所：相差女性センター

参加者：38名

⑤2020国際化プロジェクト

ミスインターナショナル世界大会の上位入賞者5名と海女との交流による情報発信

⑥かもめレンタサイクル活用着地型商品造成事業

鳥羽一番街・ガイドセンターに設置した電動アシスト自転車10台を活用し、みなとまち鳥羽の周遊促進を実施。

⑦デジタルマーケティングセミナー実施

ホームページのアクセス数増加等を目的に8月、11月2月の3回実施。

○伊勢志摩鳥羽インバウンド協議会 1,500千円

増加傾向にある外国人観光客について伊勢志摩広域で連携し更なる誘致を図るため、ファムトリップやセールスを行いました。

平成30年度で、伊勢志摩鳥羽インバウンド協議会が解散し、広域でのプロモーションを伊勢志摩観光コンベンション機構で行うため、事業の引継ぎ等を行いました。

①ファムトリップ受入実績：22社97人

（ドイツ、カナダ、香港、オーストラリア、イタリア、ベルギー、イギリス等）

②プロモーション事業

鳥羽市を訪れる外国人観光客で最も多い香港の雑誌「香港ガイドブック名古屋達人」を招へいし、伊勢志摩地域の情報を掲載しました。

③事業推進会議の開催

構成自治体及び民間団体、民間事業者との会議を開催し、情報共有や方向性について協議を行いました。

観光振興推進事業

○主な経費

会費等負担金 8,077千円 補助金 82,925千円

○主な財源

ふるさと創生基金 10,043千円 観光振興基金 24,236千円

鳥羽市ユニバーサル観光サービス促進事業

予算現額	269 千円
決算額	269 千円
翌年度繰越額	0 千円

まちづくりの目標 2-1【観光交流】自然の恵みと出会う感動をわかちあおう

(前年度決算額)	269 千円
----------	--------

高齢者や障がい者の方など誰もが訪れやすい観光地づくりを目指し、移動円滑化事業を実施するNPO法人伊勢志摩バリアフリースーツアーセンターに対して支援を行いました。

・移動円滑化事業

平成15年8月から高齢者や障がい者の方々の市内観光における移動を円滑化するため、車いすの無料レンタルを実施しています。平成18年度からは子ども連れの観光客を対象としたベビーカーの無料レンタルも開始し、いずれも市内に7箇所の貸出し場所及び30箇所以上の返却場所を設置し、多くの事業所の協力のもとに事業を展開しています。

また、車いす及びベビーカーは、安全に利用していただけるよう月に1回のメンテナンスを実施しています。

車いす貸出し実績 (件数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用件数	21	25	15	13	10	8	21	12	6	7	4	17	159
前年実績	14	40	16	27	36	23	56	39	19	34	18	28	350

ベビーカー貸出し実績 (件数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用件数	4	12	3	3	26	3	2	4	1	3	3	3	67
前年実績	0	11	6	5	21	7	5	1	3	4	3	2	68

○主な経費

補助金 NPO法人伊勢志摩バリアフリースーツアーセンター 269千円

鳥羽市観光駐車場対策事業

予算現額	200 千円
決算額	200 千円
翌年度繰越額	0 千円

まちづくりの目標 2-1【観光交流】自然の恵みと出会う感動をわかちあおう

(前年度決算額)	244 千円
----------	--------

ゴールデンウィーク、お盆、年始の観光繁忙期において、市内に臨時駐車場を開設し、交通渋滞緩和による観光客の利便性・快適性向上、市民の生活道路確保を行いました。

同事業では、交通渋滞緩和はもとより、臨時駐車場に訪れたお客さまへの観光案内、宿泊事業者の協力によるリユースタオルの配布を行っています。また鳥羽の立地を活かしたパーク&シップライドによるシャトルボートによる送迎が家族連れを中心としたお客さまに大変好評であり、満足度向上につながっています。

鳥羽市観光駐車場対策事業

	市民の森			マリパーク	
	台数	ボート乗船数	開催日数	台数	開催日数
ゴールデンウィーク	816台	2,666人	3日間	368台	9日間
お盆	1,004台	3,231人	3日間	362台	5日間
年始				146台	3日間
合計	1,820台	5,897人	6日間	876台	17日間

○主な経費 補助金 鳥羽市観光交通対策協議会 200千円

事業区分

2 観光施設維持管理事業

14,433 千円 事項別明細書 P 142 ~

観光施設維持管理事業		予算現額	9,003 千円
		決算額	8,750 千円
		翌年度繰越額	0 千円
まちづくりの目標	2-1【観光交流】自然の恵みと出会う感動をわかちあおう	(前年度決算額)	7,952 千円

観光客等が利用する公衆トイレの快適性と安全性の確保を図ることを目的として、ミニパーク安楽島海水浴場、答志椿公園、樋の山、相差千鳥ヶ浜、国崎、面白展望台の各公衆トイレの定期的な清掃や修繕、浄化槽保守点検などの維持管理を行いました。

・公衆トイレ維持管理及び修繕等

- ①公衆便所清掃業務、②浄化槽保守点検業務、③佐田浜公衆トイレ解体工事
- ④樋の山公衆トイレ洋式化他修繕、⑤相差千鳥ヶ浜公衆トイレ詰まり直し等
- ⑥佐田浜東公園足湯 ろ過機ポンプ修繕

○主な経費

- 修繕料 507千円
- 委託料 浄化槽保守点検業務 337千円
- 委託料 公衆便所清掃業務 1,720千円
- 工事請負費 佐田浜公衆トイレ解体工事 972千円
- 樋の山公衆トイレ改修工事 692千円

市営安楽島海水浴場を平成30年7月1日～8月31日までの2か月間開設し、監視員2人の配置、トイレや脱衣所等施設の清掃、海岸の清掃等を実施し、海水浴客が安全・快適に過ごせるよう維持管理を行いました。

○主な経費

- 委託料 安楽島海水浴場維持管理 1,300千円

・近畿自然歩道維持管理等

神島、菅島、答志島、青峯山・朝熊山の近畿自然歩道において、鳥羽の自然豊かな景観を楽しみながら、安全・安心に利用していただくことを目的として、維持管理・清掃を行いました。

パトロール員による定期的なパトロール（年間3回）や台風等直後におけるパトロールや草刈りを実施しました。

観光施設維持管理事業

また、伊勢志摩国立公園ステップアッププログラム2020に基づき三重県及び環境省が実施する自然公園ナショナルパーク化促進事業について、整備箇所の確認や多言語看板制作等に協力し、自然公園施設における手すり・階段・柵の改修、誘導標識及び看板の多言語化等を行いました。

整備施設：築上園地（答志島）、岩屋園地（答志島）、近畿自然歩道（菅島・神島）

○主な経費 委託料 近畿自然歩道パトロール員業務（5地区） 461千円

・日和山遊歩道維持管理等

伊勢志摩国立公園ステップアッププログラム2020におけるビューポイントに指定されている日和山について、観光客等が安心・安全に遊歩道を利用していただくことを目的に草刈・清掃を行いました。

○主な経費 委託料 日和山遊歩道草刈・清掃業務（年2回） 159千円

・佐田浜東公園足湯維持管理等

鳥羽温泉郷の周知と鳥羽駅周辺の歓迎空間づくりを目的に整備した佐田浜東公園足湯を来訪者が快適に利用できるよう、ろ過装置点検や配管清掃（年間2回）の実施や、鳥羽市温泉振興会による水質検査（毎月2回）等の維持管理を行いました。

○主な経費

委託料 佐田浜東公園足湯保守点検業務 245千円

○主な財源 県委託金 376千円 観光振興基金 2,085千円

鳥羽展望台維持管理事業	予算現額	5,685千円
	決算額	5,683千円
	翌年度繰越額	0千円
まちづくりの目標	2-1【観光交流】自然の恵みと出あう感動をわかちあおう	(前年度決算額) 12,188千円

パールロードのドライブイン機能として箱田山園地（鳥羽展望台）の利用促進および自然保護を目的として、周辺施設であるトイレ、駐車場広場の清掃、木の剪定や電気設備保守管理等、箱田山園地施設の維持管理業務を委託し、浄化槽用地、公衆トイレ用地、駐車場用地として、石鏡神社（石鏡町内会）より土地を借り上げました。

また、施設内に保管されていたPCB廃棄物処理費用の一部を負担しました。

○主な経費

委託料 箱田山園地（鳥羽展望台）広場維持管理業務 4,476千円

使用料 859千円

工事等負担金 164千円

ホスピタリティ戦略事業	予算現額	3,152 千円
	決算額	2,555 千円
	翌年度繰越額	0 千円
まちづくりの目標	2-1【観光交流】自然の恵みと出会う感動をわかちあおう	(前年度決算額) 2,945 千円

ゴールデンウィークや夏期繁忙期に鳥羽駅を利用する観光客への観光案内や車いす、ベビーカーの貸し出し及び介助を行い、観光客の満足度向上に努めました。

また、「パーソナルバリアフリー基準」を基本方針とした、「行きたい」と思える観光地を目指して、観光施設や宿泊施設等を対象としたバリアフリー勉強会の開催や施設のバリアフリー化に向けたアドバイスを行いました。

・繁忙期における鳥羽駅ボランティアガイド（通称駅ボラ）の実施

ゴールデンウィークやお盆において、市内外から駅ボラに参加する方を募集し、鳥羽駅を利用する観光客に道案内等の観光案内や車いす・ベビーカーの貸出しを行う等、延べ118人が鳥羽駅におけるボランティアガイドに参加しました。

ボランティアガイド参加者を対象に事前の研修会を実施し、参加者のホスピタリティマインドの向上を図りました。

駅ボラでの案内件数等

(単位：件)

	ゴールデン ウィーク	お 盆	備 考
市内観光施設	608	539	観光施設、買物等
市外の案内	150	179	伊勢神宮、夫婦岩等
交通機関	320	219	CANバス、送迎バス等
食事処案内	118	74	食事処、とばーがー等
その他	173	168	荷物・ロッカー、コンビニ

・情報発信事業

誰もが「行きたい」と思える観光地とする目的で、市内のバリアフリー観光情報を中心としたパンフレットの作成等を実施し、バリアフリー観光先進地としてのイメージアップを図りました。（「ばりふりっと鳥羽VOL.6～鳥羽のバリアフリーなお宿編」の制作～）

・ユニバーサル観光意識向上事業

市内宿泊施設をはじめとした観光事業者や従業員等を対象に、バリアフリー対策についての勉強会を開催しました。（平成30年10月21日 宿泊事業者1軒参加）

・バリアフリー改修事業補助相談事業

観光事業者等からのバリアフリーを意識した観光客の受入れに関する相談を受け、事業所へ出向いて具体的なアドバイスを実施しました。

また、バリアフリー改修を検討する事業者に対しては、施設の改修までの相談業務及び工事現場監修と国や市のバリアフリー改修事業補助金を申請するための認定を行いました。

（宿泊事業者3軒の相談業務・現場監修を実施）

○主な経費 委託料 鳥羽市バリアフリー観光促進事業 1,586千円

ホスピタリティ戦略事業

鳥羽市を訪れる国内旅行者及び訪日外国人等の観光客が必要な観光関連情報の収集・旅行体験等をスムーズに受発信でき、且つ観光客・住民が災害発生時に災害関連情報の収集・情報伝達の手段とするため、平成28年度に整備した無料でインターネットに接続することが可能な屋外向けの無線LANの維持管理を行いました。

- 主な経費 需用費（電気代等） 24千円 使用料（回線使用料等） 945千円
- 主な財源 観光振興基金 2,555千円

旅行商品・プロモーション戦略事業	予算現額	33,557千円
	決算額	32,804千円
	翌年度繰越額	0千円

まちづくりの目標	2-1【観光交流】自然の恵みと出あう感動をわかちあおう	(前年度決算額)	18,556千円
----------	-----------------------------	----------	----------

鳥羽の特性を活かした効果的な情報発信による誘客促進に加え、福祉と観光の連携による雇用対策の視点から宿泊産業の魅力を発信しました。

またスポーツ観光推進の体制づくりに向け取り組みを強化しました。

・海女ノベルティ制作

鳥羽市の重要な地域資源である「海女文化」を観光客等に発信することを目的に、イベント出展やセールス活動、視察受入等の際に配布するノベルティを制作しました。

- ・海女ノベルティ（海女バッチ）制作（2,000部）
- ・海女ノベルティ（海女キズテープ）制作（2,000部）

○主な経費 需用費 650千円

・海女文化に焦点を当て、平成27年度から全日空（ANA）との連携によるプロモーションを実施しており、本年度はANAが提供する三重県に特化した旅行商品「ANAスカイホリデー三重スペシャル」のパンフレットにおいて、鳥羽の特集ページ（海女に関連する施設を中心に掲載）を制作しました。またANA会員情報等を活用したデジタル広告配信も併せて実施しました。

- ・「ANAスカイホリデー三重スペシャル」における鳥羽特集ページ制作

掲載期間：平成30年6月1日～平成31年3月31日

旅行商品販売実績：697名

- ・位置情報マーケティング及びANAユーザーデータを活用したデジタル広告配信

配信期間：平成31年3月13日～3月22日（10日間）

広告表示回数：1,887,831件 広告クリック数：8,899件

広告配信対象者：過去3月以内の搭乗実績あり（国際線・国内線）

過去半年以内に1回以上羽田空港で位置情報を検知

過去半年以内に1回以上三重テラスで位置情報を検知

過去半年以内に週4回以上丸の内（商圏1km）で位置情報を検知

○主な経費 委託料 民間企業連携誘客促進事業 3,240千円

・平成29年度に制作した鳥羽市の貴重な資源である「海女文化」を紹介した番組動画（英語版）を日本語のナレーションで再収録を行い、web上での情報発信ツールとして活用しました。

- ・日本語版再収録動画

タイトル：「海女が生きるまち、鳥羽」

動画本編：約30分 ダイジェスト版：約5分

○主な経費 委託料 海女文化魅力発信番組制作事業 1,080千円

旅行商品・プロモーション戦略事業

・宿泊産業における人手不足が深刻化している中、地域共生社会を実現するための「とばびと活躍プロジェクト」として昨年度から取り組んだ就労体験バスツアー事業を継続しました。

また、新たな取り組みとして、働きたいのに働ける場所がないといった鳥羽の人々が生涯活躍できるまちづくりを目指し、福祉分野と連携することで業務内容の分解を行い主婦やシニア層がフルタイム以外でも多様な働き方を実現するためのきっかけとして「プチ勤務～おしごとカタログ」を作成し、説明会・お仕事相談会を実施しました。

- ・宿泊産業の就労体験バスツアー実施（各回とも宿泊施設3軒の職場見学及び意見交換等実施）

1回目：平成30年6月23日（土）20人参加

2回目：平成30年9月12日（水）16人参加

3回目：平成31年2月7日（木）5人参加

参加者のべ41人のうち4人が就職を決定し鳥羽市民となりました。

- ・福祉と観光の連携による市民就労促進事業

職場見学ツアー：10月～1月の間で5回実施、参加者数のべ30人

参加団体（市障害者互助会・市民生委員児童委員協議会・市地域自立支援協議会
子育て応援0, 1, 2, 3サークル!!・市ボランティア連絡協議会）

鳥羽市内宿泊事業所へのヒアリング：12事業所

説明会開催：平成30年10月20日 鳥羽市保健福祉センターひだまり 参加者61名

平成30年11月19～20日 ショッピングプラザハロー 参加者4名

○主な経費

委託料 ～とばびと活躍プロジェクト～宿泊業就労体験バスツアー事業 2,250千円

委託料 ～とばびと活躍プロジェクト～福祉と観光の連携による市民就労促進事業
6,000千円

・スポーツ合宿の誘致による宿泊産業及び観光産業の発展を目的として、スポーツ合宿を行う団体（のべ宿泊人数15人以上）に対して補助を行いました。

また、補助の対象となる合宿競技を定める事により、補助内容の明確化をし、申請の効率化を行いました。

プロモーションとして、近畿地方の大学を中心に合宿を取り扱う旅行代理店等にパンフレット等を送る事で、効果的な合宿誘致を図りました。

- ・補助団体数：9団体

- ・延べ宿泊者数：600名

- ・合宿競技：バレー3件、剣道2件、相撲1件、サッカー1件、バドミントン1件、陸上競技1件

○主な経費 補助金 市スポーツ観光推進事業補助金 739千円

旅行商品・プロモーション戦略事業

・市内宿泊施設の予約状況が非常に厳しい状況であることから、集客を行うためOTAを活用した集客業務及びマーケティング調査・分析によるターゲティング広告等により集客・観光消費額の向上を図りました。また、鳥羽市観光協会が平成29年度に構築した市内観光事業者イントラネットを活用し、情報提供及び情報共有することで、市内事業者全体の意識・知識・おもてなしの向上を図りました。

・期間中宿泊予約数：17,895人泊（昨年度16,662人泊）

・特別ホームページPV数：13,593件

・OTA閲覧再生回数：

ディスプレイ広告表示回数：7,973,758回（内クリック回数：12,297回）

YouTube表示回数：1,584,038回（内クリック数：1,108回）

SNS広告表示回数：3,968,392回

○主な経費 委託料 ICTを活用した誘客促進事業 8,565千円

・鳥羽市広告宣伝戦略委員会を組織し、鳥羽の魅力を全国に発信するため、様々な広告ツールを活用し、効果的な広告宣伝活動を展開しました。

・海藻とアートによる広告展開

「海と共生する鳥羽」をテーマに、鳥羽の海女をモデルに起用し、ボディペイントを施した「海藻アート編」と、多種多様な海藻を”髪型”として表現した「トバコレ編」の2種類のポスター等を制作しました。Webサイト等49件に掲載され、広告換算費は27,781千円となりました。

【海藻アート編】

大阪市内等のバス停45箇所掲出（平成31年2月4日～2月17日）

鳥羽駅構内壁面看板掲出（平成31年2月7日～現在も掲出中）

【トバコレ編】

近鉄難波駅・名古屋駅・桑名駅・四日市駅・白子駅・津駅に掲出

（平成31年2月4日～3月3日）

フェイスブック広告配信（平成31年2月1日～2月28日）

→広告表示回数：574,876件 広告クリック数：6,011件

・その他SNSを活用した広告展開

インスタグラムを活用し、城山公園に設置のハートTOBAモニュメントの情報を掲載する事で拡散を図りました。また海藻広告のページを恋する鳥羽ホームページ内に開設しました。

インスタグラム掲載期間：平成31年3月1日～3月18日

→広告表示回数：574,876件 広告クリック数：6,011件

○主な経費 補助金 鳥羽市広告宣伝戦略事業 10,000千円

・エコツーリズム推進協議会

市内の各産業の持続と活性化を目指し、豊かな自然や歴史・文化など地域固有の資源について地域内の合意形成を図りながら、効果的な「活用」と「保護」の両立を進めるエコツーリズムを推進しています。

・各種イベントへの出展

①環境省主催エコライフフェア2018に出展（平成30年6月2日～3日、東京代々木公園）

旅行商品・プロモーション戦略事業

- ②ツーリズムEXPOジャパン2018に出展（平成30年9月20日～23日、東京ビッグサイト）
エコツーリズムの紹介や旅行会社・メディア・交通会社等との商談を実施しました。
- ・エコツーリズムフィールドワークの開催
 - ①「鳥羽湾・三ツ島で地質探検しませんか」（平成30年9月10日、参加者10人）
 - ②「妙慶川の『コアマモ』を調査しよう！」（平成31年2月20日、参加者20人）
市内のガイドや観光関係者の地域資源に関する知識の共有や新たな魅力、アイデアの醸成を目的に、自然環境を対象とした観察会や調査を実施しました。
 - ・エコツーカーフェ2019の開催（平成31年3月28日）
エコツーリズムを気軽に理解できるよう、さまざまな分野の専門家を招へいたカフェ形式のセミナーを実施しました。鳥羽東中学校の先生と代表生徒を講師とし、自然環境学習の取り組みについて、感じた課題や地域の魅力を発表していただきました。発表の後は、参加者全員で車座になり、座談会を行いました。
 - ・わかめの無料配布の実施（平成31年1月7日）
漁業者との連携により、鳥羽磯部漁業協同組合和具浦支所から提供された生ワカメを「観光客へのおもてなし」の想いを込めて、鳥羽駅前で無料配布しました。
 - ・視察の受入れ、ヒアリング対応
鳥羽市エコツーリズム推進協議会では、平成25年度に、環境省、農林水産省、文部科学省及び国土交通省が認定する「鳥羽エコツーリズム推進全体構想」の認定を受け、かつ、取り組みが活発であるとして、エコツーリズムに取り組む全国の自治体や大学等から視察を受入れていきます。
（日本エコツーリズム協会、パラオ共和国視察団、東京農業大学、鎌倉市等6件）
 - ・伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会の活動参加
鳥羽エコツーリズムのさらなる普及と啓発を図るため、伊勢志摩地域広域でのエコツーリズム推進を担う伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会の活動に参加しました。
活動初年度にあたる今年度は、事業部会・人材育成部会・マーケティング部会・SDGs実現部会の4つの部会に分かれ、それぞれの部会で活動を行いました。
鳥羽エコツーリズムの広域化と伊勢志摩地域におけるエコツーリズム産業の発展に寄与するため、今後も、各市町や関係団体との連携強化を図ります。
 - ・市内中学校への自然環境学習に協力（平成30年5月2日～平成31年3月25日）
鳥羽の豊かな自然環境資源を教材として活用し、理科的な知識の習得とともに地域を学ぶ機会を創出し、将来の担い手育成を図る目的で、鳥羽東中学校の自然環境学習に協力しました。鳥羽の自然資源に関するレポート学習や、有志生徒と共に、自然資源を魅力的に伝える方法についての検討やアマモの種付け体験、観察記録の作成等を実施していただきました。
 - ・鳥羽市内体験プログラムパンフレットの作成
エコツアー・体験プログラムの需要は増加傾向にあることから、今後もイベント出展・PR等の際にパンフレットを活用し、さらなるエコツーリズムの推進を図るため、鳥羽市内のエコツアー・体験プログラムを集約したパンフレットを作成しました。

○主な経費 補助金 エコツーリズム推進事業 300千円

○主な財源 地方創生推進交付金 3,610千円 観光振興基金 22,604千円

食品・土産品戦略事業		予算現額	289 千円
		決算額	287 千円
		翌年度繰越額	0 千円
まちづくりの目標	2-1【観光交流】自然の恵みと出あう感動をわかちあおう	(前年度決算額)	350 千円
<p>鳥羽の食材を使用したご当地グルメ（とばーがー）の情報発信を行うため、グッズを制作し、市内外のイベント及びセレモニーにおいて配布を行いました。また、とばーがーの着ぐるみを活用したグリーティング等により周知を図りました。</p> <p>さらに、鳥羽の海の豊かさを表現するシンボルとして海藻に着目し、海藻の美しさを表現した名刺を制作しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とばーがーシールクリーナー制作（500部） ・海藻名刺制作（5種3,000枚） ・市内イベント等でのグリーティング（13回） <p>伊勢志摩ワオン贈呈式、関空旅博、FC IseShima PRブース、手ぶら観光セレモニー、いいちゃん産業まつり、さんだ農業祭、高校生地域創造サミット等</p> <p>○主な経費 需用費 287千円</p> <p>○主な財源 観光振興基金 287千円</p>			
旅行会社企画造成者セールス事業		予算現額	269 千円
		決算額	217 千円
		翌年度繰越額	0 千円
まちづくりの目標	2-1【観光交流】自然の恵みと出あう感動をわかちあおう	(前年度決算額)	261 千円
<p>鳥羽への誘客及び認知度向上のため、中部圏セールスキャラバンへの参加、旅行博への出展のほか、クルーズ船社訪問・寄港地PRにかかる視察を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆーわく倶楽部名古屋セールスキャラバン（平成30年5月17日、名古屋市内） <p>セールス先：J R 東海ツアーズ法人営業名古屋支店・中部仕入センター、日本旅行名古屋法人営業支店・中部仕入誘客推進センター、H I S 中部営業本部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道旅行博（平成30年11月2日～4日、札幌グランドホテル、来場者数のべ14,212人） ・クルーズ船誘致・ツアー造成にかかる船社訪問（平成31年3月8日、東京都中央区・品川区） ・ダイヤモンドプリンセス寄港地PRにかかる視察（平成31年3月26日、横浜港大棧橋） <p>○主な経費 旅費 217千円</p> <p>○主な財源 観光振興基金 217千円</p>			
観光魅力アップ事業		予算現額	5,500 千円
		決算額	5,114 千円
		翌年度繰越額	0 千円
まちづくりの目標	2-1【観光交流】自然の恵みと出あう感動をわかちあおう	(前年度決算額)	6,522 千円
<p>宿泊客の誘致を目的として、旅館組合等が自主的に行う鳥羽観光の魅力を高める事業への支援を行いました。地域の旅館組合が自ら考案して行う取り組みを尊重し、助言をくわえながらの実施となりました。</p>			

観光魅力アップ事業

・各旅館組合の実施事業

①答志島旅館組合「Wideloop in 答志島 beach party 2018」 補助額800千円

海岸のライトアップ及び音楽イベント実施（集客約600人）

②相差旅館組合「石神さん女子マラソン」 補助額1,500千円

石神さん女子マラソン大会の実施（平成31年2月3日、参加者667人）

③石鏡旅館組合「海女さんと漁船体験クルージング」 補助額92千円

海女さんの話を聞きながら漁船クルージングを楽しむ（夏休み期間中に航8日間）

④小浜旅館街活性化組合「10.8鳥羽の日」小浜祭 補助額1,222千円

地元の太鼓演奏と海上花火の実施（平成30年10月8日）

⑤鳥羽旅館事業協同組合「OKAMIの品格とITAMAEの粋」 補助額1,500千円

旅館文化を世界に発信するため日本語・英語での動画配信及びポスター掲示等実施

○主な経費 補助金 宿泊客誘致のための鳥羽の観光魅力アップ事業補助金 5,114千円

○主な財源 観光振興基金 5,114千円

離島の魅力創出事業

予算現額 3,300千円

決算額 3,300千円

翌年度繰越額 0千円

まちづくりの目標 2-1【観光交流】自然の恵みと出あう感動をわかちあおう

(前年度決算額) 4,500千円

鳥羽観光の特徴のひとつである離島の魅力を創出し、観光客誘致を図るため、島遺産100選等の島の魅力を活かした情報発信や受け入れ体制の整備、離島間の連携ネットワーク強化に取り組みました。しかしながら、離島への観光客入込数は減少しており、継続した取り組みと受入体制（主に人材育成）の強化が急務です。また、観光ニーズの変化に対応するため、これまでと異なった離島の魅力活用が求められています。

・島遺産100選をとおした人材育成

島遺産100選ガイドブックを活用した勉強会等を開催しました。

①鳥羽高校新入生研修会（平成30年4月13日、島の食材（わかめ）を使った調理等）

②路地裏散策プログラム実施の勉強会（平成30年5月25日、プログラムの検証及びブラッシュアップのためのチェックを実施）

③伊勢志摩共生学実習への協力（平成30年8月3日～4日、皇學館大学の地域交流の授業として、漁業体験や島内の集落散策し、実態把握を行った。

④離島間連携に関する研修会（平成30年9月26日、長崎県壱岐市に視察研修を行った方を講師とし、離島間の連携について離島地区宿泊事業者等を対象に研修を行った。

・4島ネットワーク会議

島遺産100選による島間の連携強化や離島観光振興につながる企画立案のため、4島のネットワーク会議（平成24年度に島の若者たちが自主的に立ち上げた「島むすび会議」）や島内の調整会議を開催し、島の魅力づくりに取り組みました。

4島ネットワーク会議（島むすび会議）の開催（4回）

・島遺産100選を活用した旅の構築と旅行会社との連携

鉄道事業者等が行う離島への旅行商品の造成・販売をする動きと連携し、島遺産100選を活用した企画商品の構築を行いました。離島側では、現地ガイド、ふるまい、土産（じんじろぐるマーケット開催：離島で利用されているじんじろ車にお土産物を積み販売）など島遺産100選を活用した魅力付けを行いました。

離島の魅力創出事業

①近鉄ハイキングの実施（6回企画4回実施）

- 平成30年4月22日 神島 参加者106人
- 平成30年5月13日 菅島 参加者50人
- 平成30年5月20日 答志 荒天のため中止
- 平成30年10月28日 神島 参加者17人
- 平成30年11月11日 菅島 催行人数不足のため中止
- 平成30年11月25日 答志 参加者42人

②神島ハイキングの実施（主催：奈良生駒観光協会）

- 平成30年11月15日 神島 参加者105人

・島の利便性・快適性の向上

離島での快適性を向上させるため、島むすび会議で検討を行い、島歩きをする観光客が休憩できるよう離島のロゴマークを付けたベンチを設置しました。

（答志島和具地区 1箇所）

・企業合宿、学生団体の受入れ

寝屋子制度等の離島独自の生活文化や漁船クルージング、路地裏散策等の離島ならではの体験プログラムを活用し、社員研修等を目的とした企業合宿や学生団体の体験学習等の受入を実施しました。

①企業合宿の受入（1団体25人）

②学生団体の受入（5校288人）

・情報発信

離島の魅力を紹介するため、島の見どころや体験メニューを掲載した各島のパンフレットを制作しました。また、全国の離島の祭典「アイランダー2018」や災害時相互応援協定を結ぶ長野県飯島町の「いいちゃんまつり」に出展するなど、情報発信を行いました。

①アイランダー2018：平成30年11月17日～18日、来場者約13,000人）

会場で配布した情報提供シートの配布数は全出展84ブースのうち第3位でした。

②長野県飯島町の「いいちゃんまつり」：平成30年11月3日

離島の紹介のほか、海産物の販売や、ステージでのPRを行いました。

飯島町からは臨海学習として答志島で実習を行っていただくことになりました。

③テレビ・専門誌の取材対応及び情報誌等への記事掲載

○主な経費 委託料 離島の魅力活用戦略事業 3,300千円

○主な財源 離島活性化交付金 1,560千円 観光振興基金 1,740千円

花を活かした歓迎空間づくり事業	予算現額	1,120千円
	決算額	1,118千円
	翌年度繰越額	0千円
まちづくりの目標	2-1【観光交流】自然の恵みと出あう感動をわかちあおう	(前年度決算額) 461千円

鳥羽の玄関口である鳥羽駅周辺に、花を活かした歓迎空間づくりによる観光客の満足度向上を図るため、花の植栽と日々の手入れを行いました。平成30年の6月と11月に花の植栽を行い、6月には花苗（アンゲロニア、ニチニチソウ等）6種類、11月には花苗（パンジー・ビオラ、ネメシア等）6種類、合計553株を既存のプランターを活用して植えました。日々の手入れとしては2日おきに水やりや雑草の抜き取り等の手入れを行いました。

花を活かした歓迎空間づくり事業

○主な経費

委託料 鳥羽駅前花歓迎空間整備事業 400千円

委託料 鳥羽駅前花歓迎空間植栽日常管理業務 718千円

○主な財源

地方創生推進交付金 559千円

漁業と観光の連携事業

予算現額 5,477千円

決算額 2,976千円

翌年度繰越額 0千円

まちづくりの目標 2-1【観光交流】自然の恵みと出会う感動をわかちあおう

(前年度決算額) 4,720千円

鳥羽市の基幹産業である漁業と観光の連携により、それぞれの強みを活かした魅力づくりによる産業活性化を図るため、鳥羽磯部漁業協同組合、鳥羽市観光協会、三重県とともに「鳥羽市・漁業と観光の連携促進計画（平成27年3月策定）」に沿った事業に取り組みました。

・専門家の招へい

アワビ養殖や稚貝の大型化を図るため、研究の権威である専門家を招へいし、実験調査を行いました。また、料理研究者による地元食材を使った料理教室を開催し、鳥羽の食材の持つ新たな可能性や魅力を引き出すことができました。

・未利用魚活用による6次産業化、新たな流通システムの構築

ワカメの茎部分（茎ワカメ）の有効利用に向けて鳥羽周辺の飲食店や旅館をはじめ、鳥羽磯部漁業協同組合の取引先に無償配布し、各事業者で茎ワカメを加工したメニューを開発し商品化まで結びつけるなど新たな動きに繋がりました。

また、地元大学や民間事業者の協力のもと、茎ワカメを原料にした醤油「鳥羽のつけ醤油」を試験的に開発し、これも同様に飲食店や旅館等に配布し、各事業所から貴重な意見を得ることができました。

首都圏における食材に対する高い意識を持つ層をターゲットとして、東京都世田谷区下北沢の生活者をターゲットとして、海藻を中心とした魚介類の食べ比べや海藻の持つ多様な魅力や食材の背景にある地域の魅力を伝えるイベントを開催しました。イベントには料理人やフォトグラファー、管理栄養士など多彩なジャンルのプロユーザーに参加いただき、鳥羽との新たなつながりの創出や各参加者から情報発信を行っていただくなど、今後のさらなる発展的な展開に結びつけることができました。

・オーナー制度確立・販売

浦村町で実施してるアサリ養殖ネットのオーナー制度の実現に向けて、漁村体験型観光ビジネスモデルの造成を視野に入れた企画につなげていくことを目的に学生団体のインターンシップの受入によるモニターツアーを実施しました。モニターツアーでは、アサリ養殖の作業体験のほか、夜光虫や海ほたるを使った自然体験型観光の体験、鏡浦小学校での調理実習参加による地元との交流事業を実施しました。参加者は養殖作業に対する関心が高く、現役漁師との交流も新鮮かつ魅力的であったことから、その実現に向けて継続的に取り組んでいきます。

漁業と観光の連携事業

・鳥羽サワラブランド化事業

漁業者の所得向上を図るため、サワラに着目し、これまで品質管理や漁業者への理解促進などブランド化に向けた取り組みを進めた結果、平成30年10月4日に「答志島トロさわら」として宣言し、秋口から脂が乗る旬の時期のさわらをブランド化することに成功しました。

平成30年度のシーズンは「答志島トロさわら」としての出荷実績として、本数7,339本、重量20.1トンという結果になりました。また、ブランドのタグ付きさわらの価格は前年の平均価格より21.2%上昇しました。タグ無しの価格についても前年の平均価格より4.8%上昇するなどブランド化による知名度アップ等の相乗効果でさわら全体の価格引き上げにつなげることができました。

テレビで特集で取り上げてもらうなどのメディアにも多く紹介されたり、三重県知事へ訪問や神宮へ奉納するなど広く情報発信することにつなげることができました。

・密漁対策事業

密漁のない漁業環境と漁業秩序の維持を図るため、鳥羽市密漁対策協議会を設立し、密漁防止看板を16地区に設置しました。

・魚食普及事業

日本食文化会議と連携し、鳥羽市を中心とした県内の子どもたちを対象として「食べるを伝えるコンクール」を開催し、地元食材をテーマとした料理や作文、アートのコンテストを実施しました。

開催日：平成31年2月10日（日）

開催場所：鳥羽市立海の博物館

参加者：239名

応募件数：46件

○主な経費	報償費	140千円	旅費	116千円
	補助金	漁業と観光の連携促進事業補助金		2,443千円
○主な財源	観光振興基金	2,944千円		

芸術を活かした観光振興事業	予算現額	4,908千円
	決算額	4,478千円
	翌年度繰越額	0千円
まちづくりの目標	2-1【観光交流】自然の恵みと出会う感動をわかちあおう	(前年度決算額) 5,000千円

平成28年度から10か年の計画である第二次鳥羽市観光基本計画に基づいた前期アクションプログラムの重点戦略として「芸術を活かした観光振興」が掲げられています。芸術が当市への来訪目的とするための第一段階として「鳥羽＝アート」のイメージ付けや、市民や観光客が芸術に親しむ機会創出、アーティストの作品制作・滞在支援等を実施し、芸術を活かした観光振興の土壌形成を図りました。

○芸術を活かした観光振興情報発信事業

平成29年度から引き続き、各種団体等が実施するアート展や芸術大学とのコラボレーション企画について、取材や撮影を行い記録集「鳥羽うみアートプロジェクト2018-2019」を制作しました。（72ページ、500部）。また情報発信として、専用ホームページでの記事掲載や、フライヤーの作成等を実施しました。

芸術を活かした観光振興事業

鳥羽市立海の博物館

- ・佐藤紘子展「迷いクジラは、今宵もすきを育む。」
- ・魚譜画家 長嶋祐成 作品展「三重 暮らしのさかな～海民が愛した姿をたどる～」
- ・鳥羽の海のプランクトン展～美しきミクロの世界～
- ・「貝の華」～志摩に伝わる伝統の技 堺一久作品展～
- ・阪本博文写真展「働く漁村シリーズ①～③」
- ・竹あかりと星あかり
- ・日本食文化会議（食べるを伝えるコンクール）
- ・かいそう画おおたはるか

しろんご浜（鳥羽市菅島町）

- ・武蔵野美術大学アーティスト・イン・レジデンス2018

鳥羽マリンターミナル

- ・佐藤紘子展「～中小作品の展示&キャンバストートに絵を描こう♪～」
- ・リトアート展（第2回・第3回）
- ・イルカ島 春の写生大会入賞作品展
- ・第1回鳥羽シークラブマーケット

鳥羽市民の森公園

- ・佐藤紘子展「みんなで賑やかな鳥羽の森をつくろう♪」
- ・旅するマーケット海音-umine-

鳥羽大庄屋かどや

- ・女子美術大学作品展 女子美大生4人展「A HALF」
- ・小川奈美作品展「美しさを求めて～カービングとタイの工芸展」
- ・シャドーボックス展～額の中の3Dアート～

河内公民館

- ・河内町民作品展

鳥羽市立図書館

- ・絵画展示

鳥羽駅

- ・鳥羽まちなみ水族館
- ・海藻×海女ボディペインティングアート

ARToba アートば（旧錦水堂）

- ・From Primary Senses リンダデニス&ユミ・マシキ
- ・リンダデニス×加藤千晶展「とばのひらき」

○アートイベント・アート作品展の開催

海をテーマとした作品を制作するアーティストの招へいや、展示会場の調整等を実施し、鳥羽うみアートプロジェクトとしてアートイベント・アート作品展を開催しました。

会期中にはアーティストと市民及び観光客の交流促進を目的としたワークショップ等を実施し、アートを観光資源とするための土壌形成を図りました。

芸術を活かした観光振興事業

佐藤紘子展

- ・ 作品展示（8月1日～11月10日）
4m×10mの大型作品「迷いクジラは、今宵もすきを育む」の展示（海の博物館）
油絵を中心とした中小作品30点程度の展示（鳥羽マリンターミナル）
- ・ 公開制作（10月8日）
「迷いクジラは、今宵もすきを育む」に海藻とジュゴンを加筆する公開制作の実施。
- ・ 竹あかり星あかりでの特別展示（11月9日・10日）
竹あかり作家の川渕皓平氏とのコラボとして特別に展示期間を延長しました。
- ・ ワークショップの開催（8月1日・18日、10月7日）
「キャンバストートバックに描こう♪」（鳥羽マリンターミナル）
「みんなで賑やかな鳥羽の森をつくろう♪」（鳥羽市民の森公園）
- ・ 寄贈式の実施（2月22日）
佐藤紘子氏から鳥羽市に『食べなきゃ なんにも 始まらない』（S120号）を無償で制作していただいたため、寄贈式を行いました。寄贈された作品は市長室でのパネルボードとしての活用のほか、市内のイベント等で展示を行いました。

かいそう画おおたはるか

- ・ 作品展示（2月10日～3月31日）
市内出身の美術作家おおたはるか氏に海藻をテーマとしたイラスト（29種類）を制作していただき、海の博物館で作品展示を行いました。

○海藻イラストスキャニング業務

鳥羽の海の豊かさを表現するシンボルとして海藻に着目し、市の広告宣伝等に活用することを目的に、おおたはるか氏が制作した海藻イラスト（29点×2種類）のスキャニングを実施しました。

- 主な経費 報償費 アーティストへの報償費 628千円
- 旅費 美術大学への講演、アーティスト招へい旅費等 226千円
- 役務費 作品の運送費等 105千円
- 委託料 芸術を活かした観光振興情報発信事業 2,614千円
- 委託料 海藻イラストスキャニング業務 125千円
- 委託料 アート作品展示設営業務 486千円
- 委託料 アート作品展示維持管理業務 294千円

- 主な財源 地方創生推進交付金 2,189千円 観光振興基金 100千円

中心市街地の賑わい・魅力創出事業	予算現額	4,000千円
	決算額	4,000千円
	翌年度繰越額	0千円
まちづくりの目標	2-1【観光交流】自然の恵みと出あう感動をわかちあおう	(前年度決算額) 3,000千円

海側に流れている観光客を中心市街地へと周遊させ、周辺施設の活性化、ひいては地域の活性化を目的にハートTOBAモニュメントの設置やSNSを活用したフォトコンテストを実施しました。ハートTOBAモニュメントは、鳥羽の新たなフォトスポットとしてSNS等で情報が拡

中心市街地の賑わい・魅力創出事業

散し、若年層を中心に話題になっています。フォトコンテストについては、29年度から引き続いての開催となり、写真テーマにハート部門を設定するなど、ハートTOBAモニュメントとの相乗効果による中心市街地での周遊促進を図りました。

- ハートTOBAモニュメント
平成30年8月29日完成（同日に落成式を実施）
設置場所：城山公園
- 鳥羽撮ったりましょかフォトコンテスト2018
開催期間：平成30年8月1日～10月8日
応募方法：Instagramによる投稿
#トバトリ2018部門（写真テーマなし）：応募数472件
#トバトリハート部門（写真テーマはハート）：応募数203件
- 主な経費 委託料 中心市街地の賑わい創出事業 4,000千円
- 主な財源 観光振興基金 2,560千円

インバウンド対策事業	予算現額	8,000 千円
	決算額	8,000 千円
	翌年度繰越額	0 千円

まちづくりの目標	2-1【観光交流】自然の恵みと出あう感動をわかちあおう	(前年度決算額)	13,163 千円
----------	-----------------------------	----------	-----------

平成30年（平成30年1月～12月）の外国人観光客数は、116,457人となり、大きな伸びをみせています。急増する外国人観光客に対応するため、誘客促進と受入体制の構築に取り組みました。

インバウンド対策事業

- ・外国語の堪能な専門職員を鳥羽商工会議所内に雇用し、英語WEBサイトやSNSでの情報発信を行なったほか、新たに「海女」に関する英語WEBサイトの立ち上げを行いました。
- ・受入体制の強化として、多言語対応した鳥羽駅周辺MAPや浦村牡蠣MAP、答志島MAP、鳥羽のアクティビティパンフレットを作成しました。また、市内飲食店のメニューの多言語化及びレイアウトのアドバイスを行うなど、インナープロモーションを実施しました。
(飲食店 6店舗)
- ・外国人モニターツアーやファミトリップを行い、誘客促進を図りました。
(モニターツアー モニター3名、ファミトリップ 21社 97名)

・ブリュッセル国際コンクール（日本酒部門）事業

世界的なワインのコンクール「ブリュッセル国際コンクール」において、平成30年度に「日本酒部門」が新設され、第一回目のコンクールが鳥羽市で開催されました。

コンクール期間中は外国人のソムリエやジャーナリストに鳥羽の食や海女文化などを紹介し情報発信に結びました。（平成30年10月10日～13日 タラサ志摩）

○主な経費

- 委託料 インバウンド対策事業 5,000千円
- 負担金 ブリュッセル国際コンクール（日本酒部門）事業 3,000千円

○主な財源 観光振興基金 8,000千円